

H30

39

～日本の食文化を守る～

# いでごや

枕崎  
鰹節



枕崎水産加工業協同組合

枕崎青鰹会

(財)食品産業センター認定

**本場の本物**

厳選原料・伝統の味

[www.honbamon.jp](http://www.honbamon.jp)

※ゆでる小屋→いでの小屋(枕崎弁)→いでごや



## 二十二年間ありがとうございました

青鯨会会長 田畑 洋一



青鯨会に入会して今年で二十二年になります。私の年齢が四十四歳です。で半分は青鯨会に所属していることになりました。とても長い期間ですがあつというまだったような気もします。また青鯨会最後の年の今年には会長という大役を拝任しました。

昨年台風の為中止となった「きばらん海港まつり」や「かつお祭り」、保育園での食育活動、産地入札、昨年のフランス研修に続くジャパンブランド育成支援事業による二度にわたるバンコク研修などの活動を行うことができました。加工組合はじめ各種関係団体、青鯨会会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

ただ活動のおおくの部分を若鯨会メンバーに頼りきりになってしまったことは反省しているところです。

さて、西村組合長が我々青鯨会員によく「自分が青鯨会の頃、青鯨会の集まりに出かける時は、家や会社を堂々と出て行くことができた。」と言われます。その頃の青鯨会は有意義な会と周りにも認められていたのでしょう。残念ながら今は青鯨会の役員になることや、仕事を抜けて青鯨会の事業に参加することはどちらかというかと嫌がられる傾向にあります。しかし、青鯨会をご存知のとおり全鯨青のなかでも最多の会員数を誇り、他地区青年会で青鯨会ほどの事業を行っているところはありません。また、枕崎市内の他業種の青年会や各種団体をみてもこれだけの会員数を持って、まとまりのある団体は他に見当たりません。

今年度の活動は、会長の未熟さゆえに例年通りの活動しか行うことが出来ませんでした。来年度以降は若い力に期待し、青鯨会がひと昔前のような活気を取り戻し、ますます進化することを祈念し卒会のあいさつとさせていただきます。

長い間ありがとうございました。

枕崎鯉節で  
元気ある枕崎へ枕崎水産加工業協同組合  
代表理事組合長 西村 協

青鯨会会員の皆様方には、かねてより組合運営に対し多大なるご協力をいただき心より感謝申し上げます。また、枕崎市が実施する催事や枕崎鯉節の広報活動などに積極的に参加いただき、

地域振興や枕崎鯉節のブランド力強化に大きく貢献されており無くてはならない存在となっています。これらの取組については、会長をはじめ会員の皆様方のご協力の賜物と敬意を表する次第です。

さて、組合では、国の水産強化支援事業による再資源化施設整備（化成工場建設）に着手し、来年八月の竣工を目指して鋭意努力しており、当該施設で生産される機能性物質DHA魚油の海外への販路拡大を目指しています。また、本年四月には、経済産業省から「枕崎鯉節」の商標が知的財産権制度を有効に活用しその発展に寄与したことが認められ、「知的財産権制度活用優良企業」の知財功労賞として、特許庁長官表彰を受賞することができました。この受賞は、組合内に「枕崎鯉節・品質規格委員会」を設置し、地域団体商標登録後の枕崎鯉節とそのロゴマークを一元化した

管理を行っていること。更には、「枕崎鯉節・広報委員会」の地域を巻き込んだ商標のブランド構築の取組が、市民と連携したブランド強化として評価されたものです。そして、青鯨会活動のひとつでもある、地域特産品の食育活動や生産者との交流給食などの取組みも、本受賞に大きく寄与していただいたものと感謝しております。

一方、海外へのブランド構築についても、昨年から経済産業省の支援事業を活用し、地域が持つ優れた素材や技術等を活かし、その魅力をさらに高め、世界に通用するブランド力の確立を目指す取組に尽力いただきました。今年も同事業を計画し、タイのバンコクを拠点とした海外ブランド構築に取組んでいただいております。鯉節の海外販路の開拓にも繋がることを期待していただいております。このことは地域の基幹産業である水産加工業の振興だけでなく、



地域経済の活性化にも大きく貢献するものと確信しており、活力ある「枕崎鰹節」の将来を描くには、極めて重要な取組であると考えますので、これからも若い英知を結集して前進されることを期待します。

九月に開催された鰹節類の産地入札即売会では、地域生産者が熱意と誇りを持って出品した鰹節が、品質の高さを評価され安定した価格帯での取引となりました。これからも地域がひとつとなり、「枕崎鰹節」を手間暇惜しまず生産していくことが、更なる地域ブランドの強化に繋がって行くこととなります。青鯨会の皆様には、これまでに培ってきた伝統技法や社会が求める衛生管理などを取入れ、美味しく安全で安心な「枕崎鰹節」造りに頑張っていたいただき、名実とともに日本一の産地「枕崎」が不動のものとなりますよう祈念いたします。最後に、青鯨会の皆様方にとって、来

る年が良い年でありますようお祈り申し上げます。

### 原点に帰す。

枕崎市漁業協同組合

代表理事組合長 市田恵八朗



青鯨会会員の皆様には日頃より当組合事業につきまして、ご理解・ご協力を賜り、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。また、皆様方が地域振興や食育への活動など積極的に取り組まれていると方々から聞き及び、感銘を受けており、心より敬意を表します。さて、私事ではございますが、この平成三十年二月より枕崎市漁業協同組合の代表理事を拝命致し、貴会をはじめ、水産加工業協同組合の皆様とともに水産都市枕崎運営の一翼を担う事

となりました。

今や漁業を取り巻く環境は、国際的な漁業枠規制問題や最盛期には百万人いた日本の漁業従事者の高齢化も含め二十万人を割り込む後継者不足に歯止めが掛からないなどの問題が山積し、国も『水産国 日本の復活』を唱えた様々な政策を打ち出しておりますが、現実には益々厳しいものになってきております。

そのような中ではございますが、世界的な漁業情勢を鑑みますと生産者など漁業関係従事者や加工業社の所得や収益性は、発展途上国は勿論の事、むしろ北欧や米国・豪州など多くの先進国のほうが高い実情にあります。これは無論、諸国の施策等もありますが基本的には地域や漁業に携わる人たちの豊かな向上心と漁業を取り巻く方々の連携が整っているからだと思えます。私共も原点に返り、当組合員・漁民の生活を向上し、

皆様に連携協力いただきながら奮励努力し、ひいては枕崎地域の発展に寄与して参りたいと存じますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

話は戻りますが、貴会の食育活動におかれましては、保育園や幼稚園、また障害福祉学園などを訪問し、かつおぶしを削ることから始め、ダシや茶節の美味しさを経験してもらおうという活動をなされているようでございますが、これこそが正に原点に返ることであると思えます。

団塊の世代、また、私の世代までの懇親会などで多く話題に上る内容として、幼少の頃、学校から帰宅し夕飯時ともなれば「はよ、ふすけずれ」（早く鰹節を削って）と言われ、みそ汁のダシ用にかつおぶしを削らされるのが子供の仕事でした。子供心に嫌なものでしたが、振り返ってみると、当時は現代のように多様な化学調味料は無く、手間は

かかりますが、調理直前に削ったかつおぶしを使用すれば、自然な風味や旨味が感じられました。また、削り器が各家庭に常備され、道具の鉋で削っていましたが刃物の危なさや使い方を親から教えられ必然的に身体に習得できたものでした。

現代は夫婦共働き等で時間にゆとりが無い家庭も多く、子供たちにこのような良い習慣を伝える事が少なくなってきました。時代の流れとともに簡易性や簡便性に富んだ食材が溢れるなかで、青鯨会員の皆様の食育行動は、一見、時代に逆行しているかのように見えますが、そうではなく、地道ですが、それが日本の文化を伝承していく上でとても大事なことであり、延いては枕崎鰹節の経済事業に繋がっていくのは必至だと思います。是非、この食育活動を一過性とせず、会員での今後



も継続していただけたらと思っております。

このような貴会の志に込めるべく、当枕崎漁港も平成三十七年度の完成を目途に鯉の荷さばき施設やアジ・サバを主とする青物荷さばき所、沿岸魚荷さばき所の全てを安心・安全な魚が供給できるよう、衛生管理型の漁港整備を進めながら、やはり、地元活性の為に、産官学が一緒になり協力・共同し合い、時には切磋琢磨しながら故郷・枕崎を盛り上げて行きたいと思っております。

最後になりましたが、青鯉会の皆様方の無病息災と枕崎鯉節の更なる繁栄を祈念して挨拶とさせていただきます。

持続可能な足腰強いまちに。

枕崎市長 前田 祝成



青鯉会の皆様には日頃から、本市市政運営に對しまして、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

また、本市の基幹産業であります水産加工業の発展のために、日々ご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに御礼申し上げます。

さらに「こどもの日かつお祭り」や「さつま黒潮きばらん海港まつり」等での会員の皆さまのご貢献、リーダーシップは本市にとっての大きなエネルギーとなっております。重ねて御礼申し上げます。

私も今年の一月に枕崎市長に就任し、一年を迎えようとしております。この一年、行政運営という未知の

世界に飛び込み、皆さまのご協力をいただきながら、自分なりに枕崎のために汗をかいてきました。

「日本一幸せな二万人のまち」を目標に「産業競争力の向上」「子育て支援の充実」「コミュニティの再構築」という三つの柱をその中心に据えて取り組んでおりますが、まだまだ課題は山積している状況です。

目標を達成するためには行政だけで事を進めるのではなく、市民の皆さまと一緒に取り組む、まちづくりを進めていく必要があると実感しています。その第一歩として十一月には「市民との語る会」を実施して、市民の皆さまとコミュニケーションを取ってまいりました。

この会を半年に1回のペースで開催し、地域懇談会という形で定例化していこうと考えております。

平成の時代も残すところ

四ヶ月余りとなりました。昭和の終わりに枕崎では、「全国豊かな海づくり大会」が開催され、当時の皇太子殿下・妃殿下を田代市長が出迎えられました。平成に入り、今給黎市長が三期十二年務められ、その後十六年を瀬戸口市長が一期四年、前市長の神園市長が三期十二年務められました。

平成の時代、我が国はバブル経済の終焉、リーマンショックなどの経済危機、Society 4.0と言われる情報化社会を経て、Society 5.0の超スマート社会と言われる時代、そして人口減少時代に入り、本市も少子高齢化が急速に進み、平成元年は二万九千人台だった人口も現在は二万人千人余りとなっています。

平成の終わりに私は枕崎市長に就任しましたが、この一年を終えていよいよ来年五月には新しい元号の新しい時代を迎えることとなります。また、その新しい年に本市は市政施行七十周年の節目の年を迎えます。

私は、これからの枕崎を持続可能な足腰の強い自治体にしていくために市政運営に、国連が提唱する持続可能な開発目標「SDGs」の考え方を取り入れ、ひとつひとつの施策に将来展望を持って、そして「誰一人取り残さない」という考えのもと進んでいきたいと考えています。

新しい時代のまちづくり、地域開発においては、青鯉会の皆さまの将来へ向けた将来展望や先見性、事業への取り組みのノウハウなど行政としても期待するところ、学ぶべきところが数多くあると考えております。

これから先、さらに連携を密にして地域産業の活性化、まちづくりに対するご指導ご鞭撻、またご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、青鯉会の皆さま方のご健勝と枕崎鯉節のさらなる飛躍をお祈り申し上げます。



# 平成30年度 青鯉会事業報告

1月10日  
青鯉会新年会

で盛り上がり、決勝では一〇〇グラム以上削られる方もいらっしやいました。

1月27日  
全鯉青・大阪大会

5月19日  
別府保育園（食育）

4月6日  
青鯉会通常総会

8月4・5日  
港まつり

5月4・5日  
かつお祭り

11月8日  
火之神保育園（食育）

若鯉会を中心に、二日間に渡り鯉節削り大会を開催しました。

11月11日  
森病院バザー（食育）

小児の部、小学一〜二年生の部、三〜四年生の部、五〜六年生の部、中学生の部、高校・一般の部に分かれ、一分間にどれだけ多くの鯉節を削ることができかを競いました。

11月25日  
枕崎小学校バザー（食育）

毎年多くの方が参加し、真剣な削り様と家族の応援

12月22日  
鹿児島おいどん市場 宣伝物販（PR活動）

ングを始め、大きなお神輿と多彩な動きで見学にきた皆様に楽しんでいただけた。

9月13日  
枕崎産地入札即売会

その後は鯉節削り体験を行いました。自分で削ったばかりの節を食べて「おいしいー」と喜ぶ園児の笑顔が印象的でした。

10月27日  
軸屋酒造 新酒会（PR活動）

また、保護者の方や職員の方にも削っていただき、削りたての美味しさに「家でもやってみようか」との声をいただきました。

11月8日  
火之神保育園（食育）

削っていたいただいた節はお昼に茶節（枕崎の伝統食で、味噌と削り節をお椀に入れて、お茶で溶いた簡易味噌汁）にしてお召し上がりいただきました。

枕崎市内の火之神保育園で食育を行いました。

11月11日  
森病院バザー（食育）

まずはパネルでの説明に合わせて、カコちゃんに模造刀で解体くんを捌いてももらいました。

枕崎にある産婦人科専門の病院が主催するバザーで、削り体験と茶節の試飲を行いました。

二日目は青鯉会・枕崎水産加工業協同組合の若手職員合同でお神輿を担ぎました。

主なご来場者は小さなお子様連れのご家族で、食育活動の場として非常に有意義であったと思います。

恒例となっているローリ

もらえました。

カコちゃんの登場で人が

集まったこともあり、多くの方に体験していただけた。

11月25日  
枕崎小学校バザー（食育）

12月22日  
鹿児島おいどん市場 宣伝物販（PR活動）

鹿児島市のおいどん市場にて、宣伝物販を行いました。

削りたての花かつおを目玉に、枯本節、新さつま節、味付なまり節などの定番商品のほか、しぐれ煮やかつお味噌などの総菜を含めた様々な商品を扱いました。

当日は天候にも恵まれ、お節料理やお雑煮の材料を求め多くのお客様で賑わいました。





# ギャラシー

## 食育



## PR活動





# 産地入札

# PHOTO



# お祭り

